

皆様のご意見をお聴かせください

旧若杉小学校跡地の活用方法（たたき台） に関するオープンハウス

これまでに開催したワークショップやオープンハウス等の結果を踏まえて、3つの活用方法（たたき台）（以下、「たたき台」という。）を作成しましたので、皆様のご意見をお聴かせください。



パネル展示を
ご覧ください



アンケートにご回答ください

回答期限

▶7月27日（日）



<https://logoform.jp/f/dKWV0>

検討の流れ

① ワークショップ等の開催

ワークショップやオープンハウス等を開催し、跡地活用について検討しました。

③ 案の作成

たたき台に対するご意見等を踏まえて、活用方法案を作成します。

② たたき台の作成

ワークショップ等の結果を踏まえて、たたき台を作成しました。

④ 活用方法の決定

活用方法案に対するご意見等を踏まえて、活用方法を決定します。

旧若杉小学校跡地の概要

旧若杉小学校跡地は、荻窪駅北口から徒歩約7分の場所にあり、商店や事業所、住宅が混在する地域に位置しています。



旧若杉小学校は、平成20(2008)年3月末に閉校し、旧杉並第五小学校と統合して天沼小学校が開校しました。天沼小学校は、当初、旧若杉小学校の校舎で運営を行った後、平成23(2011)年1月に現在の場所（旧杉並第五小学校跡地）に建設した新校舎に移転しました。

その後、旧若杉小学校跡地は、待機児童解消のための緊急対策として、保育施設等の用途で暫定活用してきましたが、本格活用を求める地域の声や暫定活用を行っている施設の移転などの状況を踏まえて、令和5(2023)年度から本格活用に向けた検討を開始しました。

本格活用に向けた検討では、安全面や費用面などを総合的に勘案した結果、既存校舎等の解体を基本的な方向性としています。

■敷地概要

敷地面積：7,424.14m²

用途地域：第一種中高層住居専用地域

指定建ぺい率：60%

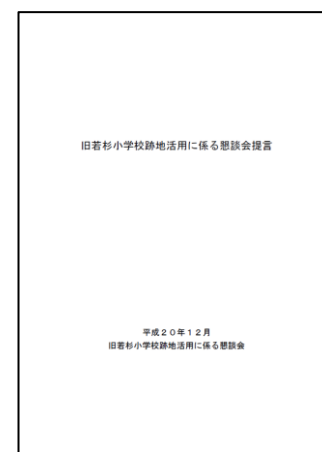
指定容積率：200%



旧若杉小学校

旧若杉小学校跡地活用に係る懇談会（平成20(2008)年12月）

地元町会や商店会、学校関係の方による懇談会を設置し、「地域の防災性を考慮し、できるだけ広くオープンスペースを確保し、通常は子供達や地域の人々が利用できるようにする」などの跡地活用に向けて実現したい3つの提案を受けました。



意見交換会（令和5(2023)年6月～令和6(2024)年5月）

地元町会の方々と、地域の課題等に関する意見交換会を5回開催しました。

◆主な意見

- 道路も狭く住宅も近いことを踏まえて、跡地活用を検討してほしい。
- 防災は重要なキーワード。誰でも平等に使える跡地活用の方法を検討すべき。

ワークショップ（令和6(2024)年11月～令和7年(2025)2月）

7つのグループに分かれて、跡地活用のコンセプト等を検討し、各グループで成果物ワークシートにまとめました。



オープンハウス（令和7(2025)年3月）

ワークショップの成果物ワークシート等をパネル展示し、アンケートを実施しました。

本格活用に向けたこれまでの検討経過は、区ホームページ（右二次元コード）にも掲載しています。



たたき台作成の流れ

以下のステップに沿って、3つのたたき台を作成しました。

STEP
1

ポイントの整理

ワークショップの各グループが作成した成果物ワークシート等を踏まえて、本格活用におけるポイントを区で整理しました。

STEP
2

コンセプトの設定

複数のグループで共通するポイントに注目して、4つのコンセプトを設定しました。

コンセプト
1

誰でも気軽に立ち寄れる

コンセプト
2

災害時に活用できる

コンセプト
3

つながりが生まれる

コンセプト
4

地域の子どもを育む

STEP
3

エリアの設定

STEP 2 のコンセプトを具体化するエリアとして、4つのエリアを設定しました。

公園エリア
(屋外)

共有エリア
(建物)

子どもエリア
(建物)

消防エリア
(建物)

6

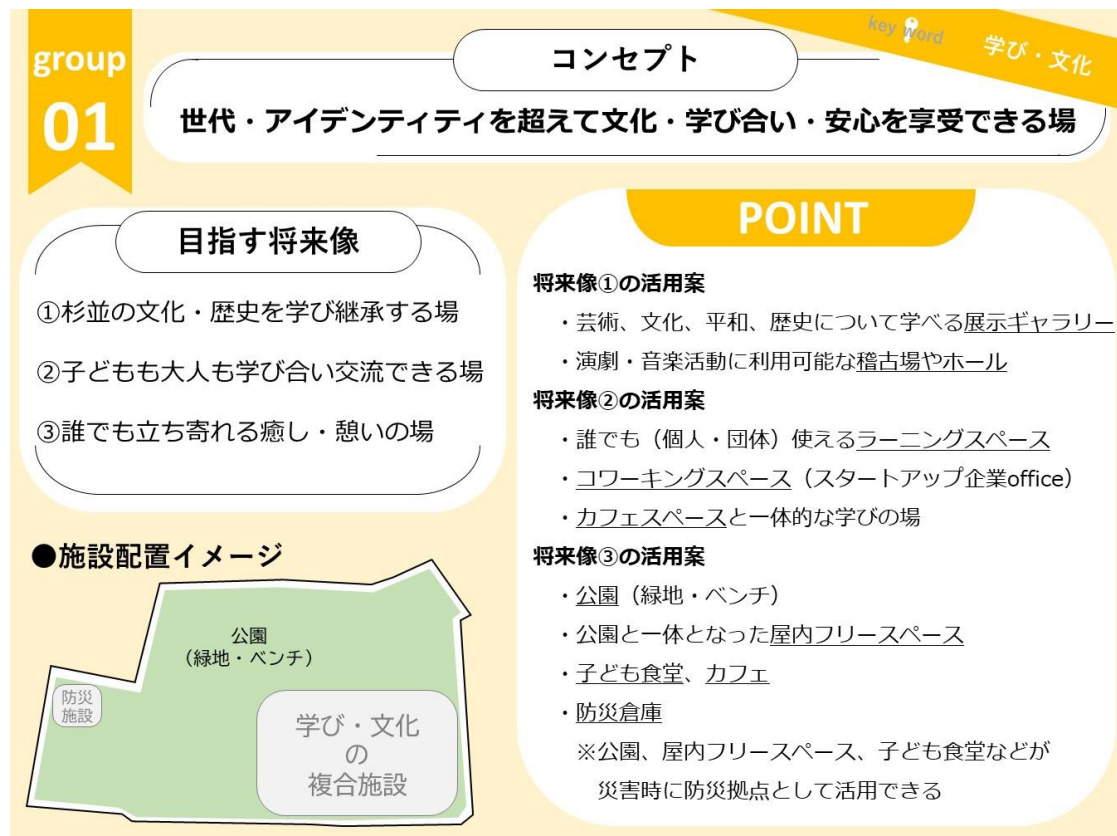
たたき台の作成

STEP 3 のエリアを組み合わせ、3つのたたき台を作成しました。

たたき台 1	公園エリア (屋外)	+	共有エリア (建物)				
たたき台 2	公園エリア (屋外)	+	共有エリア (建物)	+	子どもエリア (建物)		
たたき台 3	公園エリア (屋外)	+	共有エリア (建物)	+	子どもエリア (建物)	+	消防エリア (建物)

ワークショップの各グループが作成した成果物ワークシートやアンケート結果を踏まえて、本格活用におけるポイントを区で整理しました。

グループ1が作成した成果物ワークシート



（オープンハウスでの主な意見）

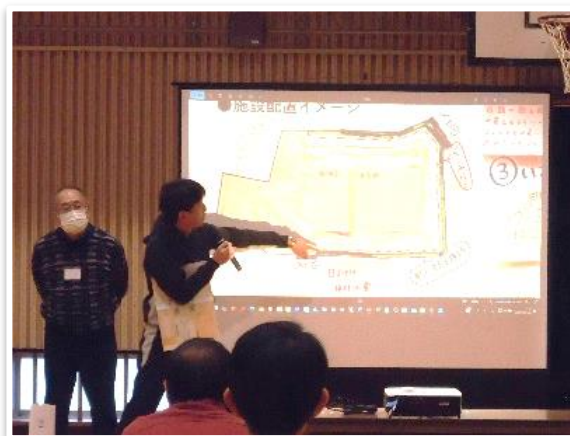
- ・旧科学館の復活、将来日常を支えるサイエンス&テクノロジーを学ぶ場、小柴先生のノーベル賞の業績の常設展示。将来のノーベル賞を期待して。
- ・杉並区には美術館がないのでほしい！
- ・杉並区には多数のアニメ制作会社があるため、彼らの創作活動の場などとして活用すれば、より多くの人が集まる空間になるだろう。

（アンケートでの主な意見）

- ・荻窪駅北側は公園が少ないので、公園や用途を限定しない建物が必要だと思った。区切られた部屋の方が利用しやすい。
- ・展示ギャラリーや稽古場、ホールを安く利用できれば子ども、若者、現役世代が興味を持ってくれそう。
- ・子どもだけでなく、大人も勉強できる場所。
- ・次世代の人材育成につながるアイデアが良い。
- ・防災とみんなが集えるという視点。
- ・防災スペースがあるのと複合施設があるのが良かった。
- ・防災と地域の活性化につながるアイデアだと思う。

整理したポイント

- 世代、個人・団体を問わず学び合い交流できる（1-1）
- 杉並の文化・歴史などを学び継承できる（1-2）
- 誰でも立ち寄れる癒し・憩いの場（1-3）



STEP
1

ポイントの整理

グループ2が作成した成果物ワークシート

group
02

コンセプト

多様な居場所・交流

私が私でいるための安心・安全なよりどころ

目指す将来像

「国籍、ジェンダー、障がいなどの属性に関わらず、老若男女誰一人取り残さない場」
「ダイアログ（対話）を通した、コミュニケーションを深める場」

●施設配置イメージ

POINT

建物…
○様々な属性の人が安心して過ごせる居場所・知識や情報を発信し、コミュニケーションを深め、繋がることのできる場
▶知識を持つスタッフに気軽に相談できる場所をつくる
▶ラウンジや集会室を設け、学び合い・集い合い・つながり合う場所をつくる
▶資料室や情報発信スペースなどの情報発信の場をつくる
▶それぞれの課題に対応する組織同士が横の繋がりを育てる場をつくる（個々人に応じたきめ細やかな対応ができるように）
○若者や中高生のための居場所
▶学習スペースを設けて勉強ができる場所を設ける
▶体育館のような運動できる場所を設ける（若者、中高生の居場所となるようにお金はかからないように!）
○一人でもいられる場所
▶ラウンジを設けて、一人でも気軽に行ける、目的が無くても行ける居場所となるようにする

LGBTQ+ 男女平等 引きこもり 障がい 国籍…

広場…
○あらゆる人たちの居場所として
▶運動できる場所を設ける
▶皆が集まる場所を設ける
▶一人でもいられる場所を設ける
森を設けて、維持管理の活動を皆で行う中で交流が生まれていく、ということもあるのでは？
…というアイデアもありました。

（オープンハウスでの主な意見）

- ・施設配置イメージが良い。余分な建物は不要。
- ・外国由来の人々が区内でも多く働き、子どもたちもたくさん育っている。日本社会で暮らし、共生しつつ、母語文化も尊重すべきなのは、隣人として当然。彼女ら、彼らのための施設も考えていくべきだ。
- ・現在ある女性センターはゆう杉並の一部を使う暫定的印象が否めなかった。広くジェンダー平等を目指す施設を今回を機会に杉並区でも旧若杉小学校跡地にぜひ設置してほしい。
- ・住む場所のない人のために有効的に活用してみれば。

（アンケートでの主な意見）

- ・広さを感じられる空間構成。
- ・防災とみんなが集えるという視点。
- ・若杉小学校を閉校して作られる施設なので、天沼小学校と天沼中学校の生徒の意見は特に重要だと思う。特に、天沼小学校は校舎に対して生徒の人数が増えて、子どもたちや保護者に不便を強いている現状を考慮すべきだと感じる。

整理したポイント

- 属性に関わらず、誰もが一人でも気軽に行けて、安心して過ごせる（2-1）
- コミュニケーションを深め、つながることができる（2-2）
- 若者や中高生のための場（2-3）

グループ3が作成した成果物ワークシート

group
03

コンセプト

子ども・交流・活気

地域のやすらぎの場となる、若者にも開かれたフレキシブルな居場所
～誰でも・いつでも・いつまでも～

目指す将来像

○日中は園児や高齢者、放課後は小学生や中・高校生、休日は全ての世代など、様々な世代がシェアしながら、それぞれのやすらぎの場となる居心地の良い地域の居場所
○そこに行けば、出会える、つながれる、何かができる場所
○中長期的にフレキシビリティのある施設として、世代やニーズの変化に対応する

●施設配置イメージ

POINT

■オープンスペースの確保
・子どもがボール遊びや運動ができるスペースを確保
・憩いや涼み処となる芝生や樹木、水辺（じゃぶじゃぶ池など）を整備
・キッチンカーや商店街の出店などを配置して、季節や時期に応じて、にぎわいを創出

■様々な人が集い、つながる場となる複合施設
・保育園や児童館を整備し、0～18歳までの世代に応じた子どもの育ちや居場所を確保。地域の人材や団体と連携して地域の子育て拠点に
・飲食可能なカフェスペース（ラウンジ）を設けて、おしゃべりや勉強、子ども食堂にも活用など、中・高校生を含め様々な世代や特性（学校になじめない子も含む）に応じた子どもたちの居場所となり、交流やつながりが生まれる空間に
・多目的に利用できるフリースペースを設けるなど、様々な世代やニーズに柔軟に対応できる空間とし、新たな出会いや活動のきっかけに

■利用しやすい、行きたくなる場所
・複合施設とオープンスペースの調和がとれ、開放感のあるオシャレな空間とし、誰でも気軽に訪れやすい場所
・地域の様々な人材・団体と連携して、施設運営にも地域が参画し、地域全体でかわり・創り上げていく場所

（オープンハウスでの主な意見）

- ・タイムシェアの発想が実に面白い。

（アンケートでの主な意見）

- ・0～18歳向きというコンセプトに共感した。
- ・オープンスペースと建物のバランスが良いと思う。
- ・防災を想定しているところは重要。
- ・時代の変化とともに、地域住民の構成やニーズが変化してその時々が必要となる内容も変化することを考えると、目指す将来像にある種の普遍性が求められると考える。その点、適切と判断した。
- ・オープンスペース、ボール遊び可、利用しやすい、行きたくなる場所。
- ・保育園や児童館の整備、芝生、キッチンカーなどのにぎわい。
- ・複合施設と広いスペースが確保されていて、調和がとれている。
- ・子どもや高齢者と比べ、中高生や若者に向けた支援や居場所づくりはどうしても弱くなりがちである。この世代を対象とした機能に重点が置かれている点が良い。災害時に最も戦力になるのも中高生や若者世代で、平時から訪れてもらえる場所とすることが重要である。

整理したポイント

- 様々な世代が安らぐことができる（3-1）
- 0～18歳までの世代に応じた子どものための場（3-2）
- 世代やニーズの変化に対応でき、新たな出会いや活動のきっかけになるフレキシビリティのある場（3-3）

ポイントの整理

グループ4が作成した成果物ワークシート

group
04

コンセプト

防災公園を!! 平常時はいろいろな用途に活用!

目指す将来像

- この地域の最大の課題である防災を視点に
- 地域の子もたちへ全世代が利用でき交流できる
- 公共ならではの施設づくり
～わくわく楽しく有効活用できる～
※駅近としては…
平常時のイベントの集客good
帰宅困難者対応good

●施設配置イメージ

POINT

- 防災の視点
 - 防災公園を!
 - ・広場として…避難者受け入れ、かまどベンチ、キッチンカーを入れることも
 - …テントも使える、仮設住宅も建てられる
 - ・消防署出張所の誘致…消防署は防災にとって強い味方
 - ※ただし…消防署跡地は子どもたちのための施設に転用
- 平常時の活用
 - ・広場として…子ども～全世代が交流できるように!
 - フルオープン、フレキシブル
 - ※特別な施設とすることで、専有化となってフルオープンにならなくなる
 - ・一部複合施設を建設…災害時は震災救援所となる(地域住民による運営)

待たなし!

令和9年(2027年)4月1日

解体開始を!!

(オープンハウスでの主な意見)

- ・防災を真ん中に、日々は子どもたちがのびのび遊べて、災害時に必要な食堂、トイレ大事だと思う。
- ・防災重視は共感する。
- ・密集地域には消防署は必要!!
- ・あまりお金をかけずにとにかく早くとりかかってほしい。
- ・防災公園にして、何も建物を置かない広場にするのが良いと思う。

(アンケートでの主な意見)

- ・防災公園は今後必要だと思う。
- ・防災対策は強化が必要な地域。日常は、公園やイベントスペースとして利用できると良い。
- ・消防署の出張所が含まれている点。
- ・子どもの居場所になれそう。
- ・荻窪駅前近辺に大きな公園がないため、防災上はとても良い案だと思った。また、コンパクトな複合施設ともバランスが良い。
- ・荻窪近辺は住宅が密集しているので、大規模災害に備えた防災の拠点が必要だと思う。
- ・一定人数を収容できる建物と広いオープンスペースが、震災救援所の視点を持って設けられている点が良い。

整理したポイント

- 防災公園、震災救援所、消防署出張所など、地域の防災力向上に資する場 (4-1)
- 子どもから高齢者まで全世代が利用でき、交流できる (4-2)
- わくわく楽しく、多用途に活用できる施設 (4-3)

グループ5が作成した成果物ワークシート

group
05

コンセプト

のんびり過ごせて、つながりが生まれる、いざという時の防災拠点

目指す将来像

- 日頃(日常)のつながりや施設が、発災時(非日常)にも活かされる
- 子どもから高齢者まで、気軽に集まり、のんびりと過ごせる
- ここで生まれた「つながり」で、地域の人材が、日常も非日常も、活躍し、支え合うことができる

●施設配置イメージ

POINT

- 日頃使う空間、顔見知りがある空間を、地域の防災拠点に
 - ▶普段過ごしている場所、顔見知りの人がいる場所だからこそ、いざという時に、防災拠点として活用することができる
 - ▶スフィア憲章・スフィア基準に合わせた避難所の確保・運営
- 子どもから高齢者まで、自分のスタイルで、自由に過ごせる
 - ▶小学生・中学生が、のびのびと遊び、勉強することができる(おしゃべりできるラウンジ、身体を動かせる部屋、自習室)
 - ▶幅広い世代の人が、特に用事がなくても、のんびりできる(公園、ベンチ、カフェ、集会所)
 - ▶調理ができるスペースがあると、子ども食堂の運営や、調理教室の開催などで交流が生まれ、孤独・孤立の防止にもつながる
- 地域の人材が活躍し、新たな人材を生み出す
 - ▶「つながりを生む」をキーワードに、地域の人材が、自分たちの発想で活動ができる場所にしていく
 - ▶その「つながり」の中で、地域の活動が盛んになり、新たな地域の人材が育ち、活躍できるようにしていく
- 防災拠点には、そこを運営する「人」「人材」が重要
 - ▶“ここ”で活動する地域人材が、いざという時の人材にもなる(特に若い世代が関われるようにしていくことが重要)
 - (日頃から、20代～50代の世代を呼び込んでいく仕掛けも必要)

(オープンハウスでの主な意見)

- ・「防災拠点」といっても日常的に使っている人たちが大事な人材になるので、そんな人たちが集まれる機能が大切。
- ・防災拠点、地域の交流の場。

(アンケートでの主な意見)

- ・防災を想定しているところは重要。
- ・オープンスペースと建物のバランスが良い。
- ・誰でも使える施設。
- ・荻窪北口の防災拠点として活用すべきと考える。
- ・20～50代の世代の施設ができるのは良い。
- ・首都直下型の大地震の発生は待たなしの状況。
- ・いざというときの防災拠点。
- ・災害への備えと同時に、特に日常のつながりに活かせるというのがいい。
- ・防災拠点、防災公園。
- ・防災性。
- ・広域の火災などからの逃げ場所の確保と、この広場自体を火から守るための大量の水の確保。

整理したポイント

- 地域の防災拠点になる日常の居場所 (5-1)
- 子どもから高齢者まで、気軽に集まり、のんびりと過ごせる (5-2)
- つながりを生み、地域の人材が活躍できる (5-3)

グループ6が作成した成果物ワークシート

group 06

コンセプト
天沼みんなの家

POINT

目指す将来像

- 自分の家のように安心できる場所
- 日々のつながりが生まれる場所
- いざという時に地域の人々が頼ることができる場所

●施設配置イメージ

POINT

- ・建物を実際に配置し、日よけができるようにする
- ・周りには緑を植えて、散歩道を設ける
- ・オープンスペースは芝ではない素材で整備する

POINT

- 1 世代や用途を問わず誰でも使える場所**
 - ✓ フリースペースを設けて、地域の人からリクエストがあった催しを開催できるように（平和に関するイベントなど）
 - ✓ 施設の1階はガラス張りにして、イベント開催時には開放して屋外のオープンスペースと一体で活用できるように
 - ✓ 図書館の本が貸出・返却できたり、壁が移動する自習室も完備
 - ✓ 重症心身障害児通所施設「わかば」のような福祉施設を入れて、災害時には利用者がそのまま待機できるように
- 2 地域の人々が集い、みんながホッとできる場所**
 - ✓ 屋外のオープンスペースではキッチンカーが来たり、お祭りを開催したり、楽しめる場所に
 - ✓ コンセントの設置や低額で飲み物が買えるようにして、子どもたちの居場所になるように
 - ✓ 1階のカフェスペースでは、子ども食堂や認知症カフェを実施
 - ✓ 建物の周りには散歩道を設けて、散歩道沿いにはベンチを設置し、公園を見渡しながらおしゃべりが楽しめるように
 - ✓ 屋上には遊具のある公園、地下には駐輪場を設ける
- 3 いざという時に震災救援所として機能する防災拠点**
 - ✓ 震災救援所として活用できる体育館や災害時にも使えるシャワー室を整備
 - ✓ 地下には応急給水槽として機能する貯水池や核シェルターを

(オープンハウスでの主な意見)

- ・お祭りなど、楽しめる場所になりそう。
- ・福祉機能がついていることが大事だと思う。カフェで収益をあげて、修繕などに使えると良いと思う。
- ・Wi-Fiや調べもののためのパソコンなどもある自習室があると便利だなと思う。一息つけるカフェやドリンクバーなどもあったらうれしい。

(アンケートでの主な意見)

- ・幅広い年齢層の人たちが集う。木陰を散策できる散歩道。イベントができるオープンスペース。
- ・小～大（18～20歳）の子たちの居場所が必要。
- ・地下に駐輪場は良いと思う。
- ・災害時に避難場所として使える体育館があるといいと思う。また、図書館の本の返却ができると便利。
- ・防災とみんなが集えるという視点。
- ・障害児が安心して過ごせる施設があると良い。
- ・図書館の機能、ラーニングスペースが必要だと思う。
- ・世代や用途を問わず誰でも使える場所。

整理した
ポイント

- 世代や用途を問わず、人々が集い、安心できる（6-1）
- 日々のつながりが生まれる（6-2）
- 震災救援所として機能する防災拠点（6-3）

グループ7が作成した成果物ワークシート

group 07

コンセプト
「つながる・育む・楽しむ天沼」 ～子育てを中心とした地域活性に根差した天沼施設～

POINT

目指す将来像

- 地域のつながりを育み・楽しむにぎわいの場所
- 地域の子どもをみんなで育む多様性に富んだ場所
- 災害時にも活用できるみどり豊かなオープンガーデン

●施設配置イメージ

施設配置イメージは一例です。他にも、複数のアイデアがありました。

POINT

つながりを育み・楽しむにぎわいの場所

- ▶地域のコミュニティ施設とする
～気軽に立ち寄ることができる、互いの顔が見える場所～
- ▶多用途に活用する
→例：ラウンジにテーブル・ソファを設置し交流広場として活用、フードコート（子どもは割引で子ども食堂の代わりに）、コワーキングスペース・チャレンジショップ、集会室、展示スペースを活用した企画展
- ▶体育館を整備し、多目的に活用する（収納庫、可動ステージ・席などを設置）
→災害時には建物を利用して避難者の受け入れ等を行う

地域の子どもを育む

- ▶子どもを安心して預けられる、遊べる環境を整備する
→保育園・児童館（中・高校生）・学童クラブの設置
- ▶障害の有無や国籍を問わず、多くの方が子どもや地域と交流できる環境を整備する
→福祉作業所・アイプラザ・多文化キッズサロン など

歩いて楽しいオープンガーデン

- ▶オープンガーデン・遊歩道を配置する（並木道・天然芝・屋上テラス）
- ▶涼を配置する（バーベキュー・オーニング・じゃぶじゃぶ池など）
- ▶災害時は、防災拠点として活用できる工夫を行う
（避難スペース確保、ヘリコプター着陸場所、雨水浸透槽・防災倉庫・貯水槽の設置等）

区財政に優しい施設・運営

- ▶民間のアイデア・投資を促す（東京衛生アドベンチスト病院との連携等）
- ▶PFI事業、森林環境譲与税の活用

(オープンハウスでの主な意見)

- ・子どもが楽しめたり、小学生が運動会などで使えるスペースが欲しい。防災施設や緑の多い公園のような場所と併用できると良いかも！！
- ・児童館の遊戯室があれば、体育館がなくても暑い時でも子どもが遊べる。
- ・地域の健康増進につながるアイデアは必要だと思う。

(アンケートでの主な意見)

- ・保育園や学童、児童館があり、スッキリまとまっている。
- ・住居も職場も近隣です。昼食を取ったり、昼休みを楽しむスペースが欲しいです。
- ・誰でも使える施設。
- ・子どもが自由に運動できるスペースと、体育館が欲しい。また、オープンガーデンは地域の憩いの場となると共に防災スペースなどで使えと感じた。
- ・立地を活かして、衛生病院の特徴である健康教育を区民が身近に取り組める場を提供できれば、区民の健康寿命が延び、医療費の支出の抑制につながる。
- ・子育てを中心としているところが住みやすい街になると思った。

整理した
ポイント

- 気軽に立ち寄ることができ、地域のつながりを育み、楽しむにぎわいの場（7-1）
- 地域の子どもをみんなで育む（7-2）
- 災害時にも活用できる（7-3）

複数のグループで共通するポイントに注目して、4つのコンセプトを設定しました。

<整理したポイント>

- ・誰でも立ち寄れる癒し・憩いの場 (1-3)
- ・属性に関わらず、誰もが一人でも気軽に行けて、安心して過ごせる (2-1)
- ・様々な世代が安らぐことができる (3-1)
- ・わくわく楽しく、多用途に活用できる施設 (4-3)
- ・子どもから高齢者まで、気軽に集まり、のんびりと過ごせる (5-2)
- ・世代や用途を問わず、人々が集い、安心できる (6-1)

コンセプト 1

誰でも気軽に立ち寄れる

子どもから高齢者まで、世代や属性を問わず、誰もが一人でも気軽に立ち寄れて、様々な用途で利用できる

<整理したポイント>

- ・防災公園、震災救援所、消防署出張所など、地域の防災力向上に資する場 (4-1)
- ・地域の防災拠点になる日常の居場所 (5-1)
- ・震災救援所として機能する防災拠点 (6-3)
- ・災害時にも活用できる (7-3)

コンセプト 2

災害時に活用できる

木造建築物の密集度の高い住宅地であることを踏まえてオープンスペースを確保するとともに、災害時の避難スペースなどに活用できる

<整理したポイント>

- ・世代、個人・団体を問わず学び合い交流できる (1-1)
- ・杉並の文化・歴史などを学び継承できる (1-2)
- ・コミュニケーションを深め、つながることができる (2-2)
- ・世代やニーズの変化に対応でき、新たな出会いや活動のきっかけになるフレキシビリティのある場 (3-3)
- ・子どもから高齢者まで全世代が利用でき、交流できる (4-2)
- ・つながりを生み、地域の人材が活躍できる (5-3)
- ・日々のつながりが生まれる (6-2)
- ・気軽に立ち寄ることができ、地域のつながりを育み、楽しむにぎわいの場 (7-1)

**コンセプト
3****つながりが生まれる**

開かれた空間で人が自然と集まり、
つながりのきっかけが生まれる

<整理したポイント>

- ・若者や中高生のための場 (2-3)
- ・0～18歳までの世代に応じた子どものための場 (3-2)
- ・地域の子どもをみんなで育む (7-2)

**コンセプト
4****地域の子どもを育む**

子どもや子育て家庭が安心して過ごすことができ、
のびのびと活動できる

STEP 2 のコンセプトを具体化するエリアとして、4つのエリアを設定しました。

公園エリア（屋外）

子どもから高齢者まで誰でも気軽に立ち寄ることができ、つながりが生まれる場として公園の整備を検討します。

<包含するコンセプト>

①誰でも気軽に
立ち寄れる

②災害時に
活用できる

③つながりが
生まれる

④地域の子ども
を育む

<エリアの説明>

- 公園の整備に当たっては、子どもから高齢者まで地域の方の意見を聴きながら、植栽の配置や遊具の設置など、具体的にどのような公園にするかを検討していきます。
- 令和6(2024)年度に開催したワークショップ等では、ベンチや遊歩道を設け、のんびりできる空間にすることやイベント開催時にキッチンカーが入れるようにし、にぎわいを創出するなどのアイデアがありました。
- また、災害時に避難スペースとして活用できるようにオープンスペースを一定程度確保した上で、災害備蓄倉庫などの防災設備の設置についても検討していきます。

下高井戸おおぞら公園



田園調布せせらぎ公園



画像 : <https://kkaa.co.jp/project/denenchofu-seseragi-hall/>

共有エリア（建物）

子どもから高齢者まで誰でも気軽に立ち寄ることができ、つながりが生まれる場として屋内のフリースペース等の整備を検討します。

<包含するコンセプト>

①誰でも気軽に
立ち寄れる

②災害時に
活用できる

③つながりが
生まれる

④地域の子ども
を育む

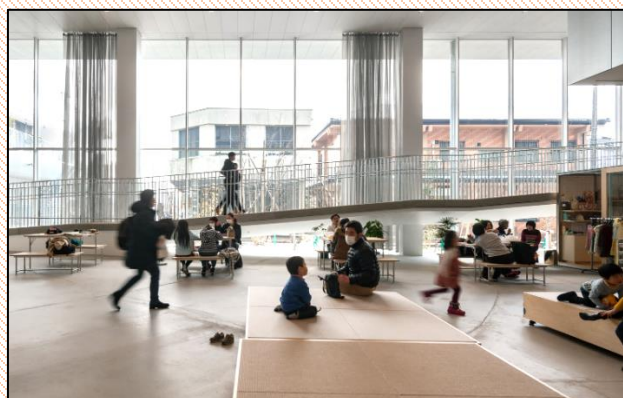
<エリアの説明>

○令和6(2024)年度に開催したワークショップ等では、誰もが予約なしで自由に利用できるラウンジのほか、学びや文化の発信に資する展示スペースを設置するなどのアイデアがありました。また、公園と屋内スペースを一体的に利用できるようにするなどのアイデアもありました。

○天沼小学校及び天沼中学校の児童・生徒からは、子どもから高齢者まで幅広い世代の交流につながるような子ども食堂スペースのほか、勉強やおしゃべりができるカフェスペースを設置するなどのアイデアも出されています。

○また、災害時に屋内のフリースペース等を活用して、引き続き震災救援所を運営することなどについても検討していきます。

須賀川市民交流センターtette



画像 : <https://unemori-archi.com/?works=sukagawa-civic-center-tentative-name>

武蔵野プレイス



画像 : <https://www.musashino.or.jp/place/1001587/1001588.html>

子どもエリア（建物）

地域の子どもを育む場として、築51年が経過し老朽化が進んでいる
近隣の上荻児童館及び上荻保育園（併設）の移転整備を検討します。

<包含するコンセプト>

②災害時に
活用できる

③つながりが
生まれる

④地域の子ども
を育む

<エリアの説明>

- 児童館は、0～18歳までの全ての子どもたちが自由に利用できる施設であり、移転整備後の上荻児童館については、特に中・高校生の居場所機能を充実させていく考えです。また、地域の関係者等とも連携して、子どもから大人まで一緒に楽しめるイベントを企画し、多世代の交流を図っていきます。
- 保育園は、0～5歳児の乳幼児を保育する施設ですが、在園の有無にかかわらず、地域の全ての子育て世帯から子育てに関する相談を広く受け付けているほか、園庭開放等を通じて、乳幼児の安全な遊び場や交流の機会を提供しています。
- また、災害時に乳幼児親子が安心して過ごせる場や子どもたちの遊び場を確保できるように、児童館や保育園の諸室の活用について検討していきます。

現在地



現在の上荻児童館・上荻保育園



消防エリア（建物）

築65年が経過し老朽化が進んでいる近隣の**荻窪消防署天沼出張所**
の移転整備について、東京消防庁と共に検討します。

<包含するコンセプト>

②災害時に
活用できる

<エリアの説明>

- 現在の荻窪消防署天沼出張所の敷地面積（約384㎡）が狭く、必要な機能を整備することが難しいため、**東京消防庁では出張所の標準規模である敷地面積（約950㎡）を確保できる場所への移転整備を検討しています。**
- 消防エリアは、他のエリアと敷地を切り離して、東京消防庁と共に荻窪消防署天沼出張所の移転整備を検討します。**
- 標準規模の出張所を整備した場合は、**緊急車両を現在の1台から増台**することや、**地域住民が救命講習等に活用できるスペース（防災教室）等を設置**することが可能になります。
- さらに、隣地にある消防団の建物との一体的な改築整備を行った場合、地域の防災力をより一層向上することができます。

現在地



現在の荻窪消防署天沼出張所



6

たたき台の作成

STEP 3 のエリアを組み合わせて、3 つのたたき台を作成しました。
なお、いずれのたたき台も既存校舎等の解体を前提にしています。

たたき台	整備するエリア
①	公園エリア（屋外） + 共有エリア（建物）
作成の視点	
屋外のオープンスペースをできるだけ確保するため、共有エリアの建物のみ建設します。	
公園エリアの面積	3 つのたたき台の中で最大 （現在の校庭面積（約2,000㎡）と比べて 2.5 倍程度 ）
建物の大きさ	共有エリア: 2 階建て を想定
特長	○公園エリア及び共有エリアは、平常時には誰でも気軽に立ち寄ることができ、つながりが生まれる場となるようにします。 ○イベント開催時等には、公園エリアと共有エリアを一体的に利用できるように、共有エリアを開かれた空間にします。 ※上記 2 つの内容は、たたき台②・③も同様。 ○公園エリアの面積が、3 つのたたき台の中で最大となります。
留意事項	○上荻児童館及び上荻保育園を現地改築することになるため、両施設の改築中は旧若杉小学校跡地に仮設建物を建設する想定です。 ○この場合、まず共有エリアの建物と仮設建物を建設し、仮設建物の活用が終了した後に、仮設建物を解体して公園エリアを整備するため、公園エリアの整備がたたき台②と比べて遅れます。 ○また、仮設建物の建設・解体に伴い、たたき台②及び③と比べて整備費用が増加します。

※具体的なゾーニング（配置）等は、令和 8 (2026)年度以降に実施する基本設計等で検討します。

たたき台 ②	整備するエリア
	公園エリア（屋外） + 共有エリア（建物） + 子どもエリア（建物）
作成の視点	
公園エリアと共有エリアに加えて、コンセプトの「地域の子どもを育む」を重視し、子どもたちの多様な居場所を確保するため、子どもエリア（児童館・保育園）を整備します。	
公園エリアの面積	3つのたたき台の中で中間 （現在の校庭面積（約2,000㎡）と比べて 2倍 程度）
建物の大きさ	共有エリア+子どもエリア（複合施設）：2～3階建てを想定
特長	○0～18歳までの子どもたちは、公園エリアと共有エリアに加えて、子どもエリアにある児童館を自由に利用することができます。 ○上荻児童館の主な近隣小学校である天沼小学校から児童館までの距離が近くなり、子どもたちの安全性や利便性が向上します。 ○子どもエリアと併せて公園エリアを整備することで、子どもたちが児童館や保育園以外の屋外で伸び伸びと身体を動かせる環境をつくれます。 ○災害時には、乳幼児親子の居場所や子どもたちの遊び場を確保できるよう、児童館や保育園の諸室の活用について検討し、乳幼児親子や子どもたちにとって安全な場所を提供します。 ○上荻児童館及び上荻保育園の改築に係る仮設建物の整備費用が不要になります。 ※上記5つの内容は、たたき台③も同様。
留意事項	○現在の上荻児童館及び上荻保育園の跡地活用を今後検討していく必要があります。 ※上記内容は、たたき台③も同様。

※具体的なゾーニング（配置）等は、令和8(2026)年度以降に実施する基本設計等で検討します。

6

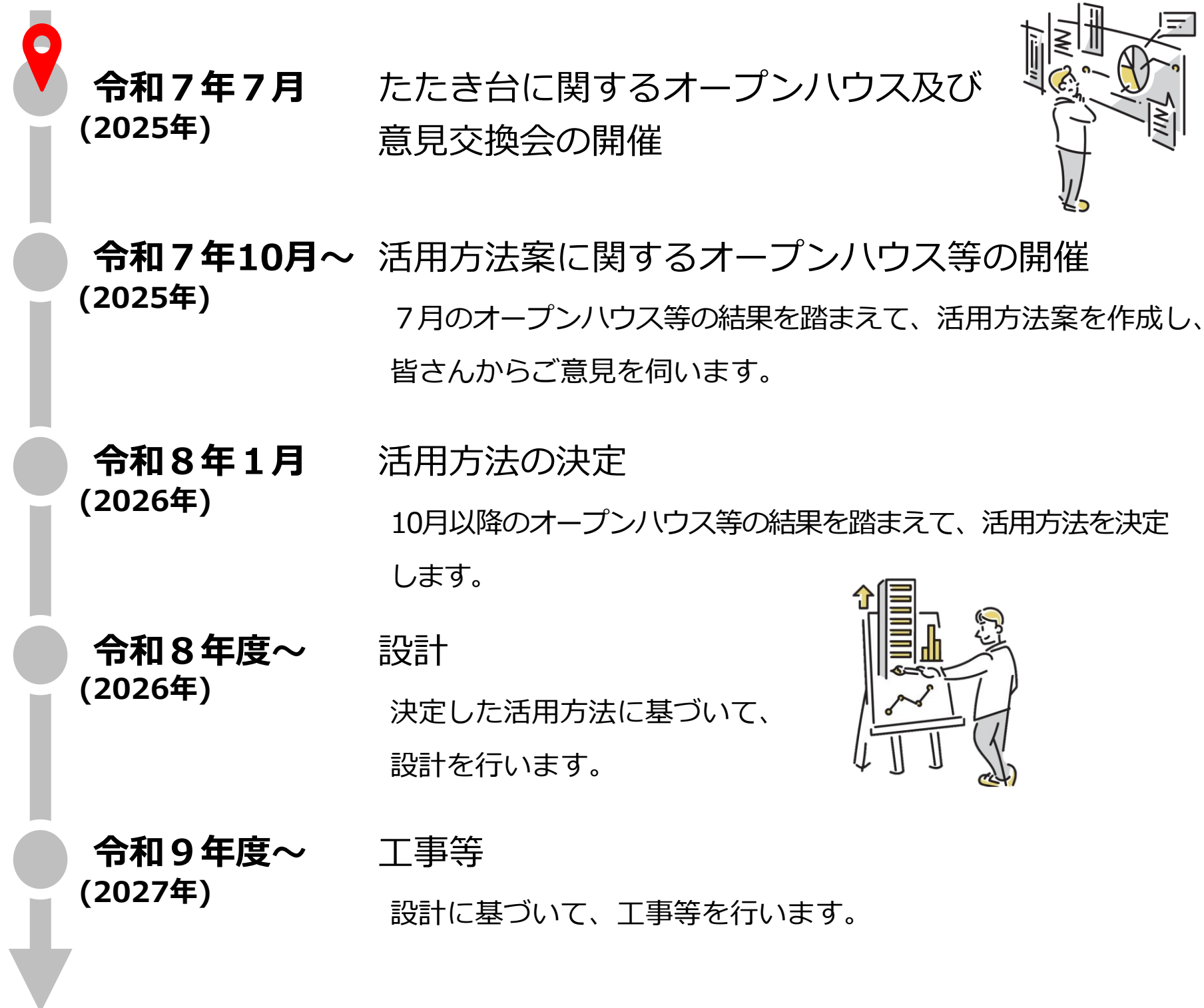
たたき台の作成

たたき台	整備するエリア			
	公園エリア (屋外)	共有エリア (建物)	子どもエリア (建物)	消防エリア (建物)
作成の視点				
4つのエリアを全て整備します。				
公園エリア の面積	3つのたたき台の中で最小 (現在の校庭面積 (約2,000㎡) と比べて 1.5倍 程度)			
建物の大きさ	共有エリア+子どもエリア (複合施設) : 2～3階建て を想定 消防エリア : (庁舎) 2～3階建て (訓練棟) 2階建て を想定 ※消防エリアの庁舎及び訓練棟は、共有エリア+子どもエリアの建物 (複合施設) とは別に東京消防庁が建設します。			
特長	○地域の課題の一つであった荻窪消防署天沼出張所の老朽化を解決することができます。			
留意事項	○緊急車両の往来や訓練時の騒音等によって、 近隣の住環境に影響がある可能性があります。 ○消防エリアは、他のエリアと敷地を切り離して、東京消防庁と共に荻窪消防署天沼出張所を移転整備します。 このため、他のエリアと整備スケジュールが異なり、たたき台②と比べて敷地全体の整備完了が遅れる見込みです。 ○ 公園エリアの面積が、3つのたたき台の中で最小となります。 ○荻窪消防署天沼出張所の跡地活用については、現時点では東京消防庁において検討していくことになります。			

※具体的なゾーニング（配置）等は、令和8(2026)年度以降に実施する基本設計等で検討します。

エリアの組み合わせは他にも考えられますが、例えば、公園エリア+共有エリア+消防エリアの特長や留意事項は、たたき台①及び③と同様（ただし、公園エリアの面積は、たたき台①及び③の間。）となります。

今後のスケジュール（予定）

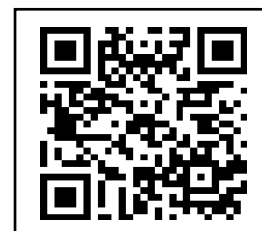


終わりに

最後までパネル展示をご覧いただき、誠にありがとうございました。

右二次元コード（<https://logoform.jp/f/dKWV0>）からアンケートにご回答ください。

回答期限： 7月27日（日）



杉並区 政策経営部 企画課 施設マネジメント担当